

# 豊南小学校・校長室だより

平成 29 年 (2017 年) 6 月 26 日  
発行者 西山 博章

第 15 号  
(通算 101 号)

児童数配布

## 修学旅行、林間学舎 ともに無事終わりました！ よ。…

つい先日、6年生が広島へ1泊2日で修学旅行へ、先週は5年生が2泊3日で和歌山北部での林間学舎へ行き、どちらも子どもたちは普段の学校生活では決して学ぶことができないような素晴らしい経験をして戻ってきたところです。

今も昔も、「宿泊行事」は子どもたちにとっても、引率で参加した先生方たちにとっても、事前の準備や学習の時間から、実際の行程が怪我などの突発的なアクシデントに対する備え等も含め、大変な労力を伴いますが、帰ってきたときの充足感、満足感はどんな言葉でも表現できず、何ものにも代えがたいものだと思います。



修学旅行での平和学習や、カッター体験、藻塩作り、或いは林間学舎での飯ごう炊さんや、キャンプファイヤー、肝試し等々、これらの取組みは極端なことを言えば、学校の施設を有効に使えば学校で行うことも可能です。しかし、「学校」という謂わば「日常」から離れて、普段なら学校から帰るとすぐそばにいるはずの家族からも離れ、普段、「学校生活」という限られた空間と時間だけの友だちや先生とのつながりではなく、24時間つねに行動を共にすることで、普段考えなかったような視点であらためて、自分たちの「日常」を捉え直すことができるのです。

それは、普段「当たり前」のように感じていたこと、例えば、「夜にお腹が空けばちゃんと時間には晩御飯ができていて」「電源を入れればすぐにテレビやパソコンが使えるようになること」、或いは「友だちと直接話さなくてもLINEでやりとりができること」等々に対して少し距離を置いて見る事ができるようになるのです。

言い換えると、物事を捉える「視野」が以前より(少しずつではありますが)「広く」なっていくのです。そしてこの経験が子どもたち、そして先生たちの「感性」を刺激して、例えば今まで「苦手」であったことに対しても自分なりに新しいアプローチの仕方を考えて積極的に取り組もうとするようになったりすることもあります。

よく、行事のあとで「子どもたちが変わった」ということを聞きますが、これは今言った「感性」が刺激されて「感性」が育っていつている証です。

宿泊行事だけではありません、通常の学校生活でも今お話したようなことは起こります。子どもがどう変わるのかはそれぞれです、7月に入ったら個人懇談があります。そこで、この一学期で子どもたちの感性がどう育ったのかをそれぞれの担任の先生とお話しをしていただければ幸いです。それをしっかりと理解した上で、ご家庭と二人三脚で子どもたちを育てていきたいと思っています。どうかよろしく願いいたします！

## ☆☆☆AAE活動犬、「レイ君」の一日。その②



学校に登校する日は、私が車のドアを開けるまでじっとして扉の前で座って待っています。(座っている間もふさふさした尻尾を地面にすりつけて左右に小刻みに振っています。これは彼の喜び、嬉しさの表現のひとつです)

私がカバンをもって車まで来てドアを開けて「入る」ように指示するとサッと飛び乗り再び座ります。学校までの道程は約1時間ほどですが(道が混んでいなければ)その間、レイ君は後の床に座って、運転している私の横に顔を覗かせ、前の景色や時には横の窓からの景色を見ているのです。これは景色を楽しんでいるのではなく、どこへ向かっているのかを考えているのです。これまでレイ君はいろいろな場所に行ってきましたが、一度行ったところはしっかりと覚えていて、それは場所だけでなく、自分が通った道(それがたとえ車から見た道であっても)を記憶しているようです。いくつかのポイントを通過して、最後にこの道を行けば確実に豊南小学校に行く道だと確信したとき、車の後部からレイ君は吠えて私にそれを言ってくれます。(実際には豊南小学校までまだ数キロもあるのですが…)

そして、学校が見えてくるとより一層彼のテンションは上がります。(着いた！といったふうです。)門で警備員の谷田さんに挨拶(?)をしたあと、車から降りると取りあえずトイレをすませて、あとは職員室に向かいます。そこでまず始めに出会うのが教頭先生と5年生の田中先生です。校長室のドアの鍵を私が開けている間、レイ君は彼流に教頭先生と田中先生に挨拶をします。そのあと、校長室に入ると私がパソコンの電源を入れたり、窓を開けたり等している間は部屋を確認して(要するに匂いをかいでいつもの自分の居場所であることを確認します)、私の机の横で私の準備(このあと、軽く散歩にいきます)ができるのを待っています。 ※続く

To be continued (次号に続きます)

藻塩を作っています！

